

半年間を過ごす日々で
知らず識らずのうちに
内(心)と外(身)に降り
積もる罪・穢を祓清め
心身を清浄な形に戻す
ことで暑い夏も健康に
過ごし長命を得られる
と考えられています

水無月の
夏越の祓
する人は
千年のいのち
延ぶといふなり

詠み人しらず

神道知識への誘ひ「夏越大祓・茅の輪神事」

多くの神社では六月と十二月の晦日に、半年間の罪・穢れを祓清める「大祓」が行なわれますが、特に六月の大祓は「夏越大祓」とも言われ、暑い夏を乗り切れるよう無病息災を祈り、神社によっては茅の輪をくぐる神事が行われます。この茅の輪とは『備後国風土記』の中で、武塔神という神が旅の途中、裕福な巨旦将来と貧しい蘇民将来に一夜の宿を求めると裕福な巨旦将来は断り、貧しい蘇民将来は快くもてなしました。

素戔嗚命なり。疫病が流行つたら蘇民将来の子孫は腰に茅の輪をつけなさい」と教え、疫病が流行つたとき腰に茅の輪をつけている蘇民将来の子孫は難を逃れたという神話から由来します。現在では大きな茅の輪をくぐり、罪・穢れを祓い無病息災を祈るようになりました。地域によっては小さな茅の輪を玄関にかけ、あるいは「蘇民将来の子孫」と書かれた札を入口に掲げる所もあるようです。皆様も大祓を行い次の半年間を清々しく新たな気持ちでお迎え下さい。

